

猛烈に眠いのだが、眼球の底は醒めつづけた結果、眼球はすっかりガラス球に変化してしまつたことに氣づく。
眠らねばとしながらも、片方では衝動の始動があり、その天秤が浮遊しているかに見えるが、次第に中心点が發生してゆくようだ。

白装束の洋装の婦人は、中年のようにみえた。さきほどから無言であり、これからも聲する氣配はなかった。
中年女性の足は見事に美しかった。そして無言は苦痛ではなかった。
しかし俺は何故眠いのだろうか？

動的な氣分があるのか！
この中年女性の表情がわかる。
大な興味となっている。見
線を走らせる。頭のとつぺ
きそうだから、美しく魅力
とはまちがいない。

中年女性は立つたままやはり無

第34回 彫美連続講座

刊行50年

砂澤ビッキ『青い砂丘にて』再考



撮影：井上浩二

彫刻家 砂澤ビッキ(1931-1989)は、1976年に『青い砂丘にて』という本を私家版として出版しています。そこには、彼が眠りのなかでみた夢を綴った15篇が収められています。

枕元で夢をすぐにそのまま記述した文からは、彼の内側にある風景や記憶が、言葉の揺らぎをともなう赤裸々に浮かび上がってきます。その不可思議で幻想的な、得体の知れないものが蠢いているような世界は、彼の彫刻とも深くつながっていると言えるでしょう。また、「大兄」と慕う澁澤龍彦からの影響やシュルレアリスムとの関係も指摘されています。

わずか300部しか発行されず、そのほとんどが友人などに配布されたため、長い間、幻の散文詩集と言われてきました。しかし、このたび刊行から50年を機に復刻されたことで、多くの人がその全文に触れることができるようになりました。

それに合わせ、当時の出版の経緯も含めて振り返りながら、この『青い砂丘にて』が砂澤ビッキの芸術においてどのような存在であるのかを、改めて考えていきます。

登壇者：砂澤凉子(砂澤ビッキ夫人)／寺地亜衣(北海道立旭川美術館学芸課長)／吉崎元章(本郷新記念札幌彫刻美術館館長)

朗読：木村 功(俳優)

日時：2026年**11月3日**(火・祝) 10:30～12:00(開場10:00)

会場：**SCARTSスタジオ**(札幌市民交流プラザ2階)
札幌市中央区北1条西1丁目(地下鉄大通駅30番出口から西2丁目地下歩道より直結。徒歩2分)

料金：500円(当日、会場でお支払いください。) 定員：80人(事前申込制)

申込方法：10月14日(水)より電話受付(先着順)
電話**011-642-5709** 受付時間10:00～17:00 月曜日休館

録画オンライン配信

当日会場にお越しいただけなくても、講座を記録した動画をオンラインで配信期間中いつでもご覧いただけます。

配信期間：2026年**11月13日(金) 10:00～11月27日(金) 12:00**

料金：500円 申込方法：右記URLから10月14日(水)10:00より申込開始。

※講座当日の同時配信ではありませんのでご注意ください。

※申込にはPeatixの会員登録が必要です。※11月25日(水)17:00まで申込可能です。

<https://chobi20261103.peatix.com>



『青い砂丘にて』復刻版
10,000円(税込)

装幀や紙質、字色なども可能な限り忠実に再現。
巖谷國士、浅川泰による書き下ろし解説付き。
※当日、会場でも販売いたします。